

5月23日 千代田労働学校(第3回)を開催

講師 江口健志(労働者教育協会)さんを迎えて

5月23日に千代田区春闘共闘の労働学校(第3回)が開かれました。以下、講演の内容です。

働くものは、なぜ連帯が大切なのか 一労働組合はどのように生まれたか。 資本主義の基本的な仕組みと労働組合



はじめに——格差・貧困化の実態。ワーキングプアの増大のなかで

最近の新聞で、実質賃金3年連続でマイナスとなっているという記事があった。物価高騰のもとで、今話題のコメの価格の高騰がある。小泉農相が登場して、コメ問題を解決するといきまいていますが、物価高騰による実質賃金3年連続マイナスは、私たちの生活にとって深刻なものだ。深刻な状況をまとめると次のようになっている。

(1)非正規の増大 非正規が労働者の4割 自活型非正規の増大 家族総出で家計を支える構造になっている。貧困の要因。

(2)周辺的正社員の増大 「最賃+α」賃金の大幅な増加 低処遇の周辺的正社員の増大。大企業の正社員の5%以上の賃上げはあったが、中小は十分に上がっていない。

(3)家族を形成できない賃金水準が蔓延 「中間層」の崩落 年功賃金規範の解体状況の中で、少子化が進行。子育てにお金がかかる、「子育ての中産階級化」。

一方、

(4)大企業の内部留保の増大。539兆円(2023年)、2008~2021→+233兆円の積み増し。(円安で一部輸出大企業は儲けている。トヨタなど)

企業別労働組合では、対応できない、大企業中心の春闘の限界。中小企業、非正規、女性労働者が置き去りにされている。

こういう状況の中で、働く者の連帯がなぜ大事なのか

★こんなときにも、労働者はバラバラにされているのが実態である。

・若者の社会運動への意識は、社会運動は「わがまま」ではないか、要求運動は「わがまま」ではないかという風に思われているのではないか。

★労働組合は、要求運動である。「わがまま」(要求)をあえて言うことが必要。

その前提が崩れているので、労働組合はどのような役割を果たすべきか?労働組合の基本機能は?なぜ、連帯が大切なのか。

1 貧困の背景・原因 剥き出しの利潤第一主義＝新自由主義がある

1990 年以降、バブルが崩壊して、財界側の打開策として、新自由主義が登場する。

(1)新自由主義とは何か

大企業が成長し、利潤を拡大していくために、その邪魔になる規制を撤廃、競争を促進し、そしてさらに利潤を拡大し成長させていくこと。それによって大企業がますます儲けやすい社会システムをつくる。

経済グローバル化によって新自由主義が加速していった。資本主義は、ひたすら利潤を追求するものである。

経済が停滞する状況の中で、利潤を追求するために、労働者にしわ寄せする。

◆賃金切り下げ リストラ 労働組合の抑圧

賃金引下げ（30 年間ほとんど上がらない）労働者をリストラ。非正規増大。労働組合を抑圧。

労働現場で競争秩序強化。労働者の個人処遇化。査定し、成果主義賃金に。職場がバラバラにされる。総額人件費は縮小していく。

◆労働者保護法制への規制緩和攻撃

労働者を守る規制を撤廃していく。「働き方改革」、労働時間規制の撤廃。自由に首切りができるように解雇の金銭解決も狙っている。

労働者派遣法の改悪、90 年代後半に改悪、適用拡大で大量の非正規が生まれる。

一方で、大企業の負担は軽減させていく。

■大企業負担の軽減

①大企業にかけられる法人税減税、②累進課税制の間に大幅緩和（かつては、累進課税は税率が最盛期は約 7 割→半分に緩和）そして、社会保障が削減される。

■公共サービスの民営化、民間委託。公共領域の解体

保育の民営化など。

■新自由主義は、生存権(憲法 25 条)の系統的な破壊である。

憲法 25 条、全て国民は、健康的で文化的な生活を営む権利がある。国は、保障する責任がある。

西欧では、福祉国家が作られる。ところが、それを壊していくのが、新自由主義である。

労働者はどう立ち向かうべきか。

(2)資本主義の基本的な仕組みと労働者

資本主義のもとでは、放っておくと、利潤第一主義にもとづく労働者間競争⇒労働者の賃金は際限なく下方に切り下げられる。

資本主義の中では、あらゆるものが商品となる。商品は役に立つ、そして値札がついているもの。

商品にしなくてもよいもの、福祉、教育、公共サービスなども商品にしている。

労働者の労働力（働く力）も商品になっている。労働力市場と言われる。経営者は、労働力を買って、機械などの設備を動かす。

労働者は、時間決めで労働力という商品を経営者に売っている。

ところが、買ったものは勝手に、自由に使わせてもらうというのが、経営者の論理となっている。長時間労働をさせるなど。それが、資本主義の本性である。

2 労働組合の基本的な機能——競争を制限し、共通ルールをつくる

労働組合は要求実現の組織。どのように要求実現をするのか。

(1) 労働組合の原点、相互扶助・共済

「労働組合はパブから生まれた」、相互扶助・対話。愚痴や不満を語り合うことは大事。それが出発点。

いろんな不満があることがわかってはじめて、そこからみんなの意見を調整することができる。

愚痴・不満から要求へ。

*今は、愚痴や不満を言うのは、わがままだという雰囲気させられている。現代の若者、「自分のものと、みんなのもの」が別々のものと理解される傾向がある。日本は、労働者が団結できないよう、分断されている。

労働組合の要求論議は、「私のものとみんなのものを重ねる」営み。自分の要求をみんなの要求にしてい
く貴重なトレーニングの場である。

*最近の事例から

・京都生協労組 地域によっては、車でないと通勤できない。駐車場代が高い。「駐車場代を無料に」と署名行動をしていく。そのことを通じて仲間意識が作られていく。

・全労働青年協 全労働は転居を伴う異動が多い。引っ越し代を出してほしい。連帯して、要求を勝ち取っていく。

労働組合は必要なんだという意識が広がっていく。

*それぞれの経験を話すことで、他の人への橋をかけていく。そうすると、違う問題のように見えていたのに、少しずつ同じ根っこが見えてくる。語り合いながら仲間になる、「仲間」としての共通性が見えてくる。

・対話、仲間を広げる。「組織化」

江東区労連、CU 江東一般のとりくみ

(2) 労働組合の基本機能——共通ルールの形成

資本主義の下での労働者間競争の現実

一つの仕事に複数の応募者。そのとき各個人が俺はこれだけの賃金がほしい、俺はこれだけでよい、いや俺はもっとわずかの賃金でよい・・・と競争すれば、もっとも低い販売価格（賃金）を申し出た人が雇用される。賃金が値崩れしてしまう。

だから、労働者は連帯していく。

① 労働力商品の集団的取引へ——団体交渉と労働協約

一人では太刀打ちできない。労働組合は、個別に販売すれば本来的に売り手に不利になる労働力商品を集団的に取引することによって、売り手（労働者）と買い手（企業）の対等性を確保する組織。

労働者間の競争制限で、賃金・労働条件に関わる共通ルールを形成することにこそ、労働組合の第一義的な役割。

上記のような不当な労働力商品の安売りを防ぐために、労働組合がその価格の標準化を申し合わせる。

⇒集合取引、すなわち労働力商品をまとめた状態にして、「共通規則」を決めて売ることができるならば、労働条件の低下を防ぐことができる。雇主と労働組合との集団的な交渉によって「共通規則」をつくることができる。労働者を集合的な状態にするものこそ労働組合。（産別労働協約の重要性）

*団体交渉で標準労働日、標準作業量、標準賃金率などを決めていく。

② 制度的方法

労働者の生活や働き方について国の法律によって「共通規則」を定めることであり、今日では労働組合の政策制度闘争として展開されている運動。法律の目的→賃金や労働時間を法律で規制することによって、競

争によるそれ以下での労働力商品の安売りを禁止。

(最低賃金制度や労働時間制度、社会保障制度。全国一律最低賃金制の確立は大きな課題)

② 共済制度

労働組合が確立した19世紀中頃は、まだ国の社会保障・社会政策が存在していなかったもので、共済制度が重要な組合機能。組合員が賃金から拠出して基金をつくり、病気や災害、老齢、死亡、失業にそなえた。労働組合はこの相互扶助精神によって築かれた。

(失業手当は職を失ったのでなんとか安い賃金でも働きたいと思う失業者に対して、「共通規則」を破ることなく、良い職がみつかるまで生活を保障するものだった)

* 愛知県医労連のとりくみ

3 労働組合の歴史(組織形態の発展)と基本的機能の展開

(1) 職業別労働組合——同じ熟練職が企業の枠をこえて地域別に結集

○19世紀半ば、自由放任の労働市場に投げ込まれた労働者たちが、労働市場を規制する方法をみずから獲得。

○同じ熟練職種労働者が企業の枠をこえて地域別に結集してつくったのが職業別労働組合。例：イギリスの合同機械工労組(ASE)

○背景：熟練労働者の技術的基礎。生産は経営者ではなく、一切が親方的な熟練労働者。

○労働組合員が労働過程を支配し、徒弟制によって労働者の技能も養成。補助労働者を指揮・監督。経営者ではなく、熟練労働者が他の労働者を管理

○職域を確定したうえで、そこで働く労働者の数を制限する政策

○職業別組合は、その職業の一定の賃金水準を組合が一方的に決定(ユニオン・レイト)。ユニオン・レイト以下の仕事場では働かないという掟を仲間で見守るという自律的な結束によって実現。

○職業別組合の共済制度。疾病手当など。生活に困って標準賃金率よりも安く働くことを防ぐ。

➡現代日本の労働組合への教訓

職業意識を培うとりくみ。東京土建、建築カレッジをつくっている。出版労連、出版技術講座を行う、公務では自治研究集会など。

(2) 一般労働組合——企業や熟練・不熟練の別、産業・業種の枠をこえて組織

○背景：イギリス資本主義、大不況期(1873~96)貧困層が増える。

○産業にも企業にも職業にも定着することがむづかしい流動的な不熟練・一般労働者たちがつくりあげた一般労働組合>

○職業別組合は非常に閉鎖的な組合。組合員資格は、この親方的な熟練労働者だけに与えられていた。他の労働者には手を差しのべない排他的な組織。1850年代~60年代くらいまで、約3分の2以上の労働者は労働組合の世界の外にあって、「貧民」のまま放置。

19世紀末のイギリスの場合、そういうワーキングプアの集う典型的な労働市場は港湾

○職業別労働組合の閉鎖性を歴史的に打破していったのが、イギリスにおける一般組合による組織化運動。活動家集団がワーキングプアの組織化を系統的に進めた。

- ・ 8時間労働制の運動
- ・ マッチ女工、ガス労働者のストライキ

・1889 年、歴史的なストライキに突入（ロンドン港のドックストライキ）。

ロンドン是世界最大の港湾都市。日雇い労働者層。約 2 万人のロンドン Dock の労働者の大部分が未組織労働者。活動家層、社会主義者の役割。

○「新組合主義」 「誰でも入れる」労働組合を！というスローガン

○一般労働組合＝企業の枠をこえて、熟練・不熟練を問わず、産業・業種の枠にもこだわらず組織された組合。熟練労働者だけの閉鎖的な組合は克服され、労働者の全階層を包み込む労働組合が登場。

○不熟練労働者は、替わりは他にいくらでもいるという代替可能性の高い労働者。未組織労働者の組織化そのものが労働組合の目的。労働者を大々的に組織してストライキを打てるようにして、そのストを背景に、経営者と団体交渉。集合取引の発展した形態。

○1920 年代に運輸一般労働組合（TGWU）が誕生。あらゆる産業に組合員をもつ超横断組合。

*それまでクラフトユニオンに顧みられなかったあらゆる産業の不熟練労働者、半熟練労働者が TGWU に加入。港湾労働者とトラック労働者を中核に化学産業にもサービス産業にも、商店にもレストランにも組合員がいる。

○一般組合運動のなかで、国家の労働政策・社会保障政策・社会政策などの制度的方法も発展。失業保険。健康保険、老齢年金。

➡現代日本の労働組合への教訓

○戦後日本の労働組合は企業別組合（正規労働者中心）が支配的。その閉鎖的性格を打破していく一般労働組合、個人加盟労組の役割。

○ローカルユニオン、CU 東京、ユニオンちよだ、公共一般など。

(3)産業別労働組合——熟練のランクを問わない企業をこえた産業別の組織

（背景）19－20 世紀初頭に、第二次産業革命と呼ばれる産業や技術の大きな変化。自動車や電機、化学のような新しい産業が起こり、生産の仕方も大量生産方式が広がる。産業別組合は、熟練のランクを問わない、全熟練階層の組合、企業をこえた産業別の組織。

○産業別組合への転換

○ヨーロッパにおける産業別労働組合の団体交渉制度は、産業別の交渉。賃金交渉をへて妥結した労働協約によって賃金は産業別に決定。企業ごとにではなく、□□職種ならどの企業で働いてもいくらかと、決める。ただし、その賃金は産業内で一本ではなく、産業のなかの職種ごとに、かつ、そのなかの熟練度ごとに賃金が定められる。職種別・熟練度別賃金。

○労働条件の全般が企業ごとに決定されるのではなく、企業の外で、産業別組合と経営者団体との交渉によって決まる⇒一つの企業が自社の労働者の賃金を引き下げ、長時間働かせて企業間競争に打ち勝とうとしても、そうはいかない仕組みがある。産業別労働組合はストライキの圧力を背景に、産業別交渉で決着をつける方法によって要求実現を経営者に迫る。労働者間競争を規制し、「共通規則」を貫くという労働組合の方法の到達点。

○最賃運動などで、地域の最低賃金を決めていく。

➡現代日本の労働組合との関連

○新宿みらべる分会（スーパーの組合）賃上げの取り組みで、新宿の公契約条例（時間単価 1400 円）に連動してほしいと要求する。社会全体で賃金相場を作っていく。

- 港湾労働運動 ○建交労トラック部会の集団交渉
- 出版労連教科書共闘
- ◎日本でなぜ、産業別労働組合への試みが大切か
- *労働条件を企業間の競争条件から外す。労働者間競争の規制へ

(4)福祉国家の形成・確立と一般労働組合、産業別労働組合

- 資本主義の転換 20 世紀の転換
- 労働者政党の誕生
- 1906 年、労働争議法。争議行為の民事免責
- 社会保障政策の発展
 - 児童福祉政策、老齢年金 国民保険法（すべての労働者の強制保険）。健康保険、失業保険、税制改革、累進課税制など
- 第二次世界大戦後の福祉国家の発展
 - *ナショナルミニマム保障 医療費無償化 教育費無償 低家賃公共住宅
- 背景：労働組合の形態転換。全階層の巨大な労働組合。自助ではなく、労働組合による社会改良運動。貧困観の転回
- *労働組合を土台とした政治変革。それによる政治的規制の力。

➡現代日本の労働組合との関連

- 最賃 1500 円運動 ○公契約運動
- 野党共闘と労働組合 一区市民連合 千代田区労協

(5)歴史の転換期に、労働組合は新たな展開をとげた——一般労働組合の現代的意義

- 資本主義の必然的帰結としての、貧困、失業、非正規労働者増大。それに対応する労働組合運動をつくった。一般労働組合の役割。
- 弱肉強食の、剥き出しの資本主義のなかに、共通ルールをつくってきた労働組合の経験。
- ➡<横断的規制>をつくった労働組合
- 貧困・格差の拡大にたいし、政治的規制、福祉国家をつくった。
- ◎基本的視点
 - 職場、職種（産業）、地域
- ◎新自由主義の時代に、新たな労働組合の展開、一般組合運動や地域労働運動の発展が求められている。
 - ・現代でも、一般労働組合、ユニオン運動、地域労働運動が起点となって新自由主義に対抗する社会的規制をつくりつつある。
 - ・現代アメリカの労働運動——組織化と社会的労働運動
 - 非正規組織化のとりくみ。社会運動ユニオニズム 社会的キャンペーン運動
 - 労働組合と社会運動団体との連携で、生活賃金運動、FF15\$運動。最賃引き上げ
 - 地域における社会運動と労働運動との連携

4 まとめ

なぜ連帯が求められるのか

(1) 新たな連帯の動き

- ・ 自活型非正規の要求
- ・ 「基幹的非正規労働者」が層として存在
- ・ 要求の発展。賃上げへの切実な要求。経験給への要求など

○個人加盟ユニオン活性化へのいくつかの取り組み。集団化への試み

誰でも、一人でも加入できる労働組合の努力

* 「対話」の大切さ

- ・ 地域 一人でも入れる地域ユニオンの強み。地域の仲間。仲間づくりの努力(ユニオンちよだ)。
共済の力(CU 東京)
- ・ 職場

沖縄うまんちゅユニオン トラック運転手 職場での対話

新宿一般みらべる分会 スーパーで組合結成。

公共一般の組合

回転ずしユニオン シフト労働者の集団化 職場のマッピング 対話の重視

- ・ 産業、業種別の視点

新潟公共一般 仕事を語る 対話と仲間づくり

公共一般の業種別ユニオン 回転ずしユニオン

自治体非正規労働者の職種別結集の意義

○最賃闘争 1500 円運動の意義

- ・ 公契約条例の拡張適用への視点 新宿一般労組

(2) ローカルセンターの大切さ

企業の枠を越えて、地域の仲間とともに

相互支援の重要性

千代田区労協、千代田区労連の役割が重要。

(3) 労働組合の連帯と、社会変革

○連帯が広がること、労働組合が大きくなることは、社会を変える大きな一歩に。

○日本における憲法 25 条規範の弱さ。

憲法 25 条を実現し、社会保障を抜本的に拡充するためにも、現代日本で一般労働組合、地域労働運動、さらには産業別労働組合を育てる意義。

○新自由主義を終わらせるために政治変革が不可欠

20 世紀に労働組合が土台になって福祉国家をつくった経験から深く学ぶ必要がある。

1 区市民連合の経験と地域労働組合(一般労働組合)の役割

(千代田区労協事務局長 小林秀治)

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。

* 千代田区労協通信バックナンバー / http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2023.htm

次回の労働学校

6 月 27 日(金) 18 時半～

私の組合はジャンケンで役員を決める？

労働組合と民主主義を考える

講師: 黒澤幸一(全労連事務局長)